

▶ 不妊治療は、夫婦二人で取り組むもの

不妊治療の専門医である竹内先生に、不妊治療の正しい知識と私たちがどう向き合っていけばよいのかをお聞きました。



竹内産婦人科院長兼ARTセンター長

竹内 欽哉^{てつや} 先生

不妊治療の 気になること Q&A

Q. 働きながら不妊治療できる？

A. 患者さんの約7割が働きながら治療しています。しかし、治療が進むと、働き方を変えなければならない場合もあります。

Q. 高齢出産のリスクって？

A. 流産のリスク(染色体異常など)、妊娠中のリスク(高血圧など)、出産時のリスク(微弱陣痛など)などいろいろあります。妊娠・出産は、女性の年齢が大きく関わります。

● 不妊治療の今と昔

昔よりも不妊治療の敷居が低くなり、治療を受ける人が増えています。不妊治療をして子どもを授かったという話を聞いて「私もやってみようかな」と思う人が増えたのだと思います。

● 孤独な戦い

お子さんが一人もいない人が不妊治療をする場合、相談する相手がいないことが多くあります。なぜなら、同世代の友達が次々と妊娠していたり、子どもがいたりすると相談できません。また、親にも相談しにくいものです。夫が支えてくれている人はいいいのですが、夫があまり理解していないと、誰にも相談できず、受診すら迷っている人もいます。初めて受診したときに、泣き出してしまう人もいます。

● 妻と夫の価値観

夫婦の不妊治療への考え方の違いは、治療方針に関わってきます。妻は「治療してでも子どもが欲しい」と思っているが、夫が「そこまでしなくてもいい」と思っていることがよくあります。夫が治療を拒否する理由に、「不妊治療をよく知らない」ことや「経済的な負担が気になる」などがあります。また、治療は女性の心身にストレスが掛かります。夫が妻の気持ちを理解し、夫婦として子どもをもつことをどう考えているか、きちんと話し合っておくことが大切です。

● 妊娠前から考えてほしいこと

《女性へ》20代から月経不順があるようなら、一度産婦人科を受診することをお勧めします。月経だと思っていても、実はそうではなく排卵していない場合があります。

《男性へ》男性も加齢により不妊のリスクが高まり、精子の量が減少したり、働きが悪くなったりします。

また、好きな相手がいたら、女性の年齢や子どものことを視野に入れて、結婚など自分の人生設計について考えてみてください。

● 不妊治療をされる方へ

明確なプランをもって治療してください。「何歳までに何人欲しいか」を夫婦で話し合ってお決めください。自分の年齢を考えて、妊娠までに最も効果的で、経済的な治療方法を主治医の先生と夫婦で考えてみてください。